



自分の生活と重ねながら、気付いていく

学校教育活動全体で行っていく道徳教育の基盤を担う「道徳科の授業」では、教材と自分の生活を重ね合わせることで学びが深まっていきます。低学年では、生活していく中で大切な気持ちについて考え、中学年では、大切な気持ちや行動が分かっているながらもできないことがあり、そのときにしっかりと行動できるようにするためにはどうすべきか考えます。また、高学年では、大切な気持ちを選択して、よりよい行動をとるためにはどうすべきなのかを考えていきます。どの段階でも教材と自分の生活を重ねながら、自分だったらどう思うのか、自分だったらどう行動するのかを考え、新しい視点や深い視点に気付けるようにしていきます。そのため、児童の本音を引き出し、みんなで話し合うことで様々な考えに触れることができ、心が豊かになっていきます。本校の道徳科の授業では、どの授業でも児童が本音で話し合うことで、深い学びへとつなげていきます。

○「特別の教科 道徳」の様子 規則の尊重

2年2組での『おじさんからの手紙(礼儀)』の授業の様子

※本時の学習は以下の視点で進めました。

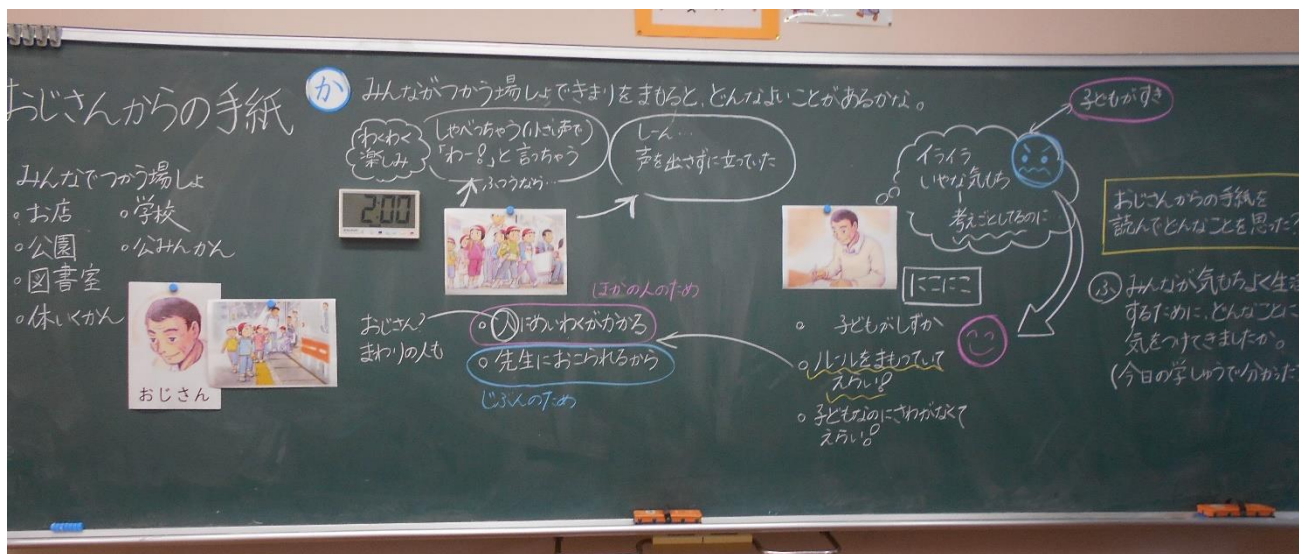
- ・公共の乗り物でも約束やきまりを守ることが大切だという視点。
- ・きまりを守ることでも自分も周りもいい気持ちになるという視点。

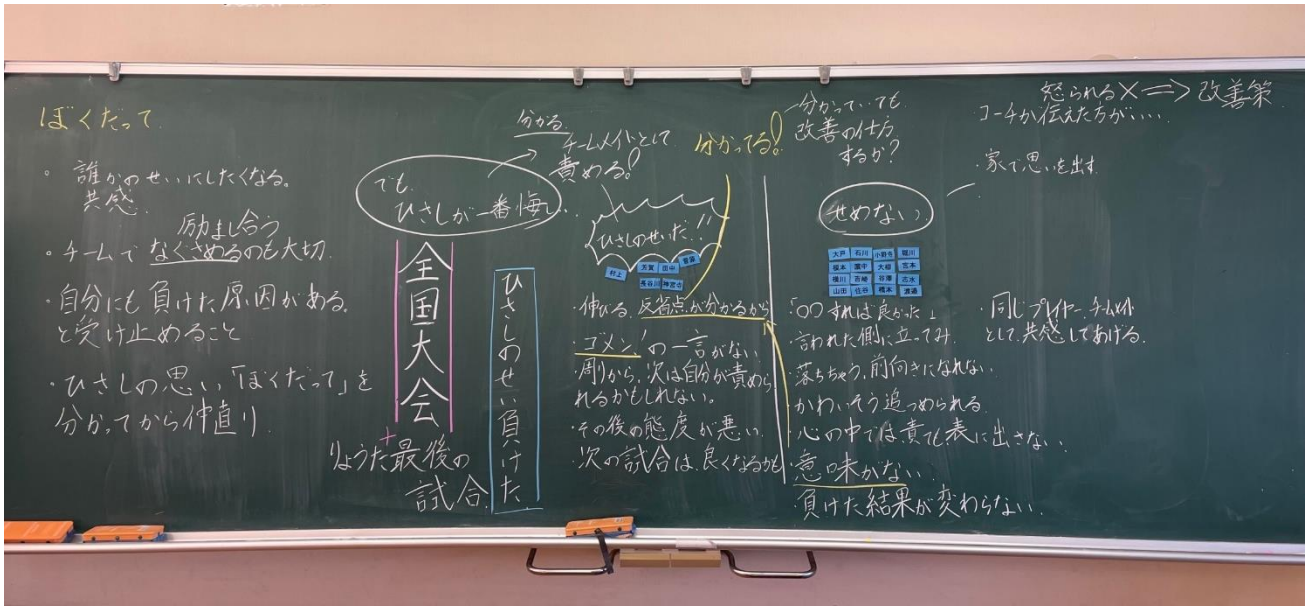
規則の尊重の目標

低学年・・・約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。

中学年・・・約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。

高学年・・・法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。





相互理解、寛容